

5バリュースセット株式会社  
代表取締役 斉藤 彰一

お世話になります。

今年、3年ぶりに卓球の市民大会に参加しました。ミックスダブルス3組の団体戦なのですが、我がチームの結果は3位でした。

我がチームは女子が強いのですが、3人の女子のうち2人は80歳以上でして、今回も年齢をものともしない彼女達の元気さ、勝負への執着心にはつくづく感心させられました。

久しぶりの大会参加でしたので、チームメンバーや対戦相手など大勢の方々といろいろなお話しができました。その中でも最も印象的でしたのは、高校2年生の男女でした。5年前に2人が小学生の時に私がよくコーチをしていた教え子です。5年ぶりに立派に成長した姿を見ることができて、また、私に対して何だか照れくさそうにしている2人と会話ができ、私は何だか熱く、嬉しい気持ちとなりました。

その日は悦びの多い1日となりました。

前職での米国研修でのことですが、数名の成功しているFA（ファイナンシャル・アドバイザー）が、それぞれ自分のビジネスの理想を話しておりました（米国ではこのような機会はよくありますが、日本では理想を話し合うことなどは全くないと思われます）。その中で私が最も印象的でしたのは、ある女性FAでした。

彼女は祖父の代からのIFA法人を継承しているFAでした。彼女の理想は「特定の世代のお客さまに偏ることなく、子供から老人まで、すべての世代に関わるウェルスマネジメント」でした。

一般的な証券会社の考え方としては、「選択と集中」でして、お客さまの世代についても偏りがちだと思いますが、彼女の理想はそれとは真逆であり、なので私にはとても印象的でした。

彼女は詳しい理由はその場では話してはおりませんでしたので、今でも彼女の真意は私にはよく分かりません。私なりの解釈なのですが、特定の偏った世代に関わって生きている人と、あらゆる世代に関わって生きている人を較べてみると、後者の人生の方がはるかに豊かで悦びが多いのだと思います。そしてそのような人生を歩むFAが信頼されやすいのだとも思います。

前述の卓球大会の1日からそのように思い至ったのですが、筋違いでしょうか？

当社では、私を含めた社員が高齢世代に偏ってしまっており、頭も耳も痛いところです。色々理想は遠いのですが、これからも5バリュースセットを宜しくお願い致します。

2026年4月15日